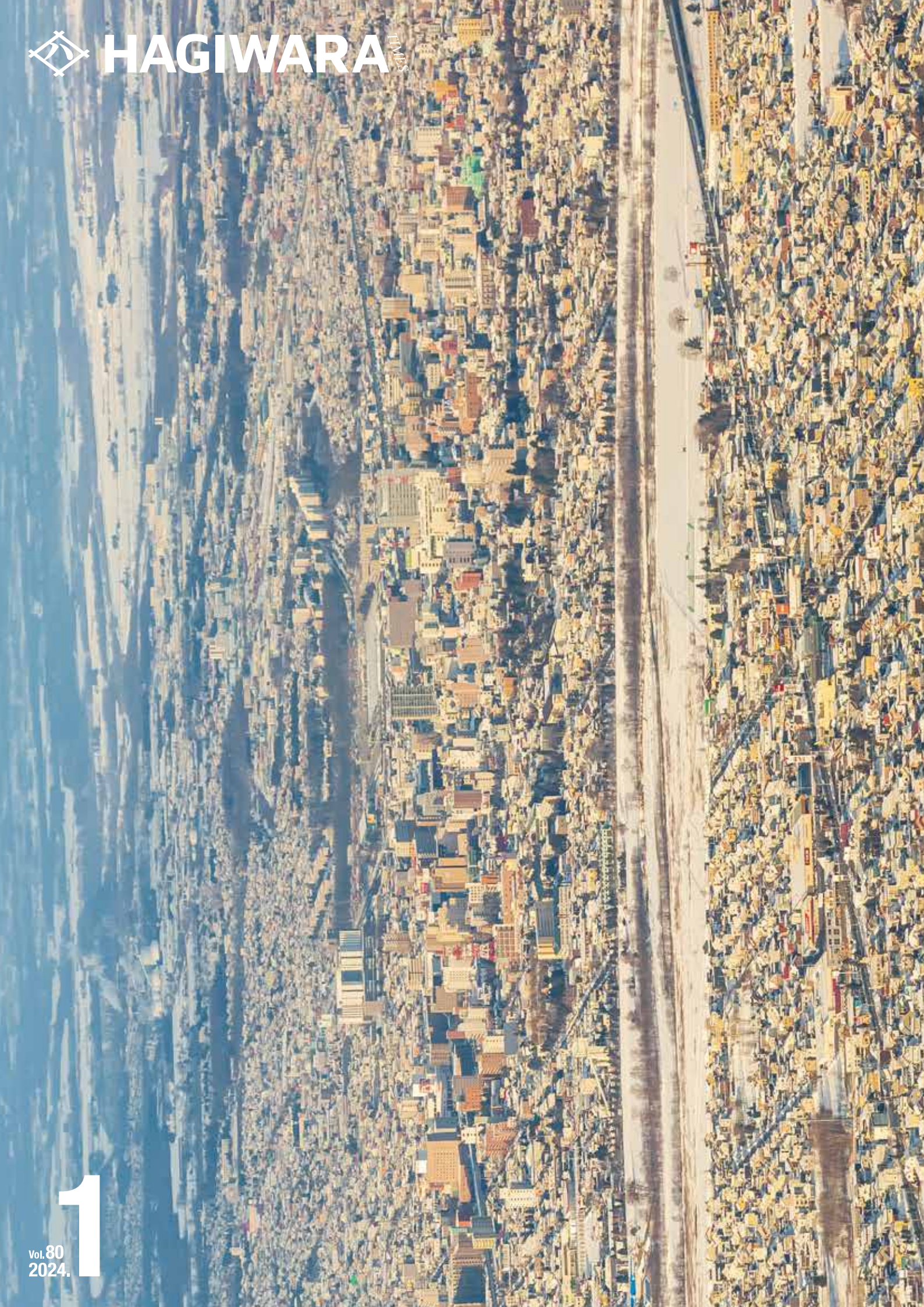




HAGIWARA TIMES



1

Vol. 80
2024.



HAGIWARATIMESをご覧いただいている多くの方々は、建設業が「3Kイメージの定着」「高齢化・人材不足」「長時間労働」等の諸問題を抱えているという現状認識をお持ちの事と思います。一方で皆さまの周りには、モノづくりに誇りを持ち、諸問題にチャレンジし着実に成果を上げることで、自社や業界に貢献されているスタッフ等が大勢活躍されているものと拝察いたします。

勿論、弊社にもそうした多くの社員が日々の業務に臨んでいます。今回はその中から 転職後わずかな期間で高難度の資格を取得した営業担当、海外プロジェクトに傾注している設計課長、転勤を期に一層のスキルアップを果たし現場をサポートする建築部員、国籍の壁を乗り越え研鑽を怠らない社員を紹介いたします。

こうした発信は社内においても社員間の意思疎通を高め士気を高揚させ、弊社と業界のイメージアップに寄与するものと信じます。

このような考えのもと、弊社の広報は今後、施工実績のみならず、社員の取り組みや活躍など、より広範な情報発信に努めて参りますので、変わらぬご支援をお願い申し上げます。

今野 智規 (こんの ともりの)

所属部署：営業本部 営業管理課

30歳の節目に新天地として昨年入社。合格率

約15%、通常300時間の勉強が必要と

されている「宅建」の資格取得に向け、

日々の業務に重ねて励んだ。

② 2024年はどんな年にしたいですか？

昨年は建設業の知識を深めるためにインプットに全力を注いだ1年でした。今年は広い視野で担当外の業務にも関心を抱きつつ、日々の業務に「+α」ができるようなアウトプットに挑戦する年にしたいと考えています。

③ 今野さんにとって挑戦とは何ですか？

「未来への投資」です。近い未来か遠い未来かはともかく、未来の自分に何かしらの形で返ってくると信じ、未来の自分にとってプラスになるであろう挑戦は、今後も続けていこうと考えています。

① 2023年を振り返ってどうでしたか？

転職したことで、日常的に新しい情報や知識を受け入れることの重要性を再認識しました。

この職場は成長の場であり、いい仕事をするための環境を提供してくれていると感じています。私生活でも第二子の誕生を迎え、家庭環境が大きく変化しましたが、会社や関係者のサポートに支えられ、前向きに取り組むことができました。

その結果、宅建士の資格試験も合格することができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

上野 菜月 (うえの なつき)

所属部署：札幌支店 建築部 管理課

会社内で複数の現場を技術支援する

という初めての試みに向け、

現場社員との密な連携を

図り奮闘した。

② 2024年はどんな年にしたいですか？

来年は現場の業務を分担することに留まらず、業務の効率化に向けたツールの提案、様々な視点で業務を見直すことで現場の労働時間削減に繋がるよう尽力したいと思います。

③ 上野さんにとって原動力となるものは何ですか？

現場管理の大変さを知っている分、社員の皆さんの負担を少しでも減らすことができればという思いで働いているので、現場の方から「助かってるよ」などの声が聞けると一番の原動力になります。

① 2023年を振り返ってどうでしたか？

今年の4月、帯広本社から札幌支店への異動と同時に現場勤務から内勤への変更があり、私にとって大きな変化の年となりました。

最初は新しい環境に馴染めず、不安もありましたが、自分の経験やスキルを活かして現場をサポートすることでやりがいを感じています。

① 2023年を振り返ってどうでしたか？

海外プロジェクトにおいて本当に様々な貴重な経験をさせていただきました。

その中にはこれまでに無い様々なハードルがありましたが、関係者の皆様と積極的にコミュニケーションをとりながら協働し、プロジェクトを大きく前進させることができ大変有意義な1年となりました。



カンボジアにおけるサッカースタジアム建設プロジェクトにプロジェクトマネージャーとして携わり、異国の文化や価値観、そして設計手法や建設手法の違いを受け入れつつも、今まで培ってきた技術と経験を活かして海外プロジェクトに果敢に取り組んだ。

濱田 純也 (はまだ じゅんや)

所属部署：建築部 設計課

② 2024年はどんな年にしたいですか？

海外プロジェクトの建設フェーズが本格的に移行します。本当に沢山の皆様の様々な思いが詰まっているプロジェクトです、そんな皆様の思いを「カタチ」にするためにプロジェクトマネージャーとして覚悟と希望、そして強い情熱を持ち全力でプロジェクトに向き合っ参ります。

③ 最近で意識していることはありますか？

海外業務での貴重な経験が大きなターニングポイントとなり、業務を遂行する際の連携や影響の「空間軸」と、過去・現在・未来の「時間軸」を強く意識する様になり思考の幅が広がったかと思っておりますので、今後の業務に活かしていきたいと考えています。

① 2023年を振り返ってどうでしたか？

測量機器を扱えるようになり、重要な書類についても教えてもらいました。

また、土木の皆さんが熱心に教えてくれるので、日本語は日に日に上達して昨年12月に「日本語検定3級」を、2月に「普通自動車第一種運転免許」を取得できました。

現場に行くことで仕事を深く理解できて、実践の中でたくさん学ぶことができました。



仕事の習得と

語学学習を同時に行うことは

困難でありながらも、入社してから

現在に至るまでその努力を継続されている。

レ-ティエン-クオン

ディン-ヅィ-チュオン

所属部署：土木部 工務課

② 2024年はどんな年にしたいですか？

2024年には新しい知識をたくさん学び、自分たちで現場の書類を処理できるようになりたいです。同時に職場の人達とスムーズにコミュニケーションできるように自分の日本語能力も向上させていきたいと思っています。

③ 最近で嬉しい(楽しい)ことはありましたか？

現場で任せてもらえる作業が増えてきて、仕事がとても楽しいです。先輩や、作業員の方々に普段から声をかけてもらえることがとても嬉しいです。

産業能率大学倉田ゼミ 報告会に参加しました!!



●報告会の様子(産業能率大学内にて)



●プロジェクト最終日

弊社と産業能率大学(東京都世田谷区)はtokachi field action Labの企画がご縁で3年前から交流があり、相互理解を深めつつ、学生さん目線の提言も頂いています。今年は、8月28日からの4日間倉田ゼミの皆さん9名を十勝にお迎えし、ディスカッションや現場見学を経て「建設業界を広報の観点で盛り上げたい」との施策提案を頂きました。

その事を含めた倉田ゼミの報告会が同大学のキャンパスで行われ、萩原副社長以下3名が参加致しました。発表を要約すると「萩原建設工業の今の広報では建設業の魅力を伝えきれていない」「社内広報の充実により社員間でそれぞれの取組みを共有することで社員の士気も上がるし、社外広報では建設業に興味の無い一般層(例えば文系学生)への発信を強化することで業界の魅力が広く伝わるはず」「そのために社内外に広く配布されているHAGIWARATIMESの充実が必須」との内容でした。

また、「当初、建設業はきつい・きたない・きけんの印象しかなかったが、生き生きと仕事に取り組む社員のお話を聞いてイメージが変わり、北海道で良い時間を過ごせた。この感動を是非HAGIWARATIMESに載せて欲しい」と弊社にとって嬉しいお話を聞くことが出来ました。

参加された学生の皆さんを含め関係各位に御礼申し上げるとともに、頂いた提案を生かし業界のイメージアップに努めて参ります。



●プロジェクト期間の様子



📷 今月の表紙

撮影: 萩原建設工業 営業部・仁藤 正憲

令和6年最初そして記念すべき80号の表紙は去年のお正月に熱気球に乗ったときの写真です。十勝川温泉上空辺りから帯広市内方向を撮ったもので、中央部には帯広市中心部が見えます。この景色も弊社創業の1918年から劇的に変化してきたでしょう。2024年は街づくりの再スタートとして、地域の皆さまが喜ぶ新たな施設ができることを期待しています。萩原建設工業はコーポレートスローガン『未来を築く情熱を、挑戦に。』を掲げて地元十勝を始め、北海道の未来の為に貢献する企業であり続けられるよう邁進してまいります。



HAGIWARA INTERNSHIP 開催中



マイナビ2025

詳細・お申し込みは
当社ページより!!



2024年1月号 / HAGIWARA TIMES vol.80

萩原建設工業株式会社

バックナンバーは当社HPよりご覧ください。

〒080-0807
北海道帯広市東7条南8丁目2

<http://www.hagiwara-inc.co.jp/>

TEL.0155-24-3030

